第14号　平成20年3月10日（年２回発行）

松ぼっくり

2008年　春号

國松石材株式会社
発行所／国松石材株式会社
本　　社　福岡市博多区下呉服町8-35
営業本部　糟屋郡志免町南里11-5
TEL 092-957-3500／FAX 092-957-3505
墓石ガーデン　福岡市東区香椎472-3（三日月山霊園下）
TEL 092-672-7257／FAX 092-672-7258
工　　場　福岡市東区松田3-16-12
TEL 092-629-1189／FAX 092-629-2043
ホームページ　http://www.kunimatu.com

黒田（くろだ）　如水（じょすい）

～近代都市福岡の基盤を築いた人物～

複合都市福岡

福岡は、古くから栄えた商都・博多と黒田五十二万石の城との複合都市として今日まで発展してきました。

突然ですが、『福岡県民、福岡市民、福岡ドーム、福岡空港』、『博多者（もん）、博多弁、博多にわか、博多織、博多人形、博多山笠、博多どんたく』。私たちは『福岡』と『博多』、この二つの呼称を使い分けていませんか？ひとつの場所、ひとつの街、ひとつの都市なのにまるで二つのものが存在するかのようです。これは歴史上過去に二つの街が存在した事実を表しています。

このような歴史的背景を作り、近代都市福岡の基盤を築いた人物こそ黒田如水なのです。黒田如水とはどんな人物なのでしょうか・・・。

黒田　如水

天文十五年（一五四六）十一月播州姫路に生まれました。幼名『万吉』、通称『官兵衛』、諱（いみな）『孝高』、出家して『如水』と称します。

如水は、幼きころより大志あり天性聡明にして鋭敏、才智に富み、武略人に勝っていました。その才能は、織田信長に褒め称えられ、豊臣秀吉に頼りにされ、秀吉の軍師として秀吉が苦境に陥るたびに、的確な助言と戦術を与え続けたと言われています。秀吉が天下統一へと進んでいくかたわらには、常に如水の姿があったようです。しかし秀吉は、如水の才能に惚れ込むと同時に、やがて自分の地位を脅かすのではないかと恐れてもいました。「自分に代わって天下を治める者があるとすれば如水だ。」と秀吉に言わしめたことがその証明となるでしょう。そのことを知ってか、徳川家康は如水の才能を恐れていたと言われています。戦国三大武将に仕えた如水は、まさに戦国最強の軍師といえるでしょう。

黒田家家紋『黒田藤巴』を創始

如水が秀吉に従う中国地方平定の戦いで、信長に反旗を翻し毛利方についていた荒木村重を説得すべく、伊丹の有岡城に単身乗り込んだ際、獄に繋がれてしまいます。一五七八年、如水三十三才の苦難であり、幽閉期間は、約一年に及びました。

土牢は、三方を竹藪に囲まれ陽の射すこともない薄暗い場所でした。池に面していたため、湿気が土牢の内にまで入り込み、食事も不規則だったため、如水の身体は、衰弱していきました。

そんな如水を慰めてくれたのは、竹藪の中から伸びてきた藤の蔓でした。瑞々しい若緑の蔓を牢の鉄格子に巻きつけ、やがて薄紫の花房をつけるまでになったのです。日の当たらぬ場所でも、時がくればこんな美しい花を咲かせるではないか。如水は藤の花房に勇気付けられ、自分も今の苦境の先に花を咲かせてみせよう。密かにこう誓ったそうです。それほど藤花は印象深かったのでしょう。後に如水は、三房の藤花をあしらった藤巴を家紋にしています。

▲黒田家家紋
『黒田藤巴』

『福岡』の誕生

一六〇〇年、天下分け目の関ヶ原の合戦が行われ、徳川家康が勝利を治めます。このとき活躍したのは、黒田長政＝如水の息子でした。そしてこの功績が認められ、戦後家康から筑前（現・福岡県）一国を与えられました。

一六〇一年、博多の西方、福崎の地を『福岡』と改称しました。『福岡』というのは、かつて黒田家が住んでいた土地の名前で、備前邑久郡福岡（現岡山県）にあたります。吉井川河口の港町でしたが、如水は、姫路に移り住み、福岡は寂れてしまっていました。如水は福岡にいた時代が忘れられず、いつか永住の地に移り住んだら、その地名を復活させようと考えていたのです。そして永住の地となったのが筑前国（現 福岡県）でした。ところが、この改称には、博多商人たちの大反対があったようです。「博多の地名は上代から国際港として有名であること、福岡の地名は黒田家に縁があるのみで、九州やこの地域には何の関係もない。個人的な事情で地名を変えてもらっては困る。」というものでした。この抵抗は如水たちには意外だったようです。しかし如水の福岡の地名復活は宿願でした。彼は妥協策を考えました。「福崎地域は福岡に改める。ただし、博多の地名はそのまま存続させる」これが如水の策でした。

現在、福岡市はあっても、博多市はありません。しかし博多区として地名が残り、またＪＲの駅名は博多です。この策こそ二つの地名が共存する所以となり、冒頭で述べたように、『福岡』・『博多』の複合都市の始まりとなったのです。

福岡城築城

筑前入りした黒田長政は、はじめ小早川隆景が築いた名島城（福岡市東区名島一丁目所在）を受け取ります。しかし、五十二万石の大藩の居城としては城・城下町ともに手狭に感じ、新たに城を築くことにしました。そこで博多の西方、福崎の地を選び福岡城築城にあたりました。名島城の石垣、門、櫓も利用されているそうです。

黒田如水と長政父子が福崎の地に入り、七年後 一六〇七年、福岡城が完成しました。如水は、この福岡城築城にも貢献しました。人も知る築城のベテランだったそうです。福岡城築城後、すでに隠居していた如水は、博多の町づくり、文化、行政上に尽力し、また花鳥風月を友として静かに余生を送り、五十九歳で亡くなりました。

「歴史」と「自然」を味わえる市民のオアシス福岡城。その福岡城も、昨年二〇〇七年に築城四〇〇年を迎え、天守閣再建に向けての市民運動が行われました。

光雲神社（福岡市中央区西公園）

藩祖黒田如水公と初代藩主黒田長政公を祭っています。神社の名前『光雲』は、如水と長政両公の法名から一字ずつ採り、名付けられました。如水法名は、「龍光院殿如水圓清大居士」長政法名は、「興雲院殿古心道卜大居士」昨年は、福岡城築城四〇〇年とともに、同神社が現在地に移転し、一〇〇年の節目を迎え、記念の大祭が行われました。

黒田家菩提寺 崇福寺

▲福岡市博多区千代町の崇福寺には、黒田家のお墓が建ち並びます。中央が如水の墓です。

藩祖如水の命日に当たる三月二十日、崇福寺に隣接する黒田家墓所では、黒田家関係者や旧藩士の子孫らが集まって法要を営んでいます。昨年は、福岡城築城四〇〇年目の節目ということもあり、法要の席には、黒田家ゆかりの『黒田奨学会』から奨学金を受ける大学生たちも駆けつけ、今の福岡の礎をつくった如水公に感謝し、如水公の墓前で、将来への夢を熱く語り合ったそうです。また、一層の精進を誓って、ヤマモミジの記念植樹を行ったそうです。秋には見事な紅葉を見せるであろう立派な成木に負けないよう、大学生たちも夢を叶え、飛躍していくことでしょう。

取材御協力ありがとうございました。

黒田奨学会　理事長　各務　章様

『黒田奨学会』

旧福岡藩主黒田家が「国を担う人材を育てたい」と、福岡市中央区舞鶴三丁目の黒田家別邸の土地を寄贈したことを受け、一九一五年十一月に創設されました。土地の賃貸収入を奨学金に充て、旧福岡藩領域の高校生などを対象に大学進学後の学費を支援しています。旧藩の流れをくむ奨学会で活動を続けるのは現在、全国で黒田奨学会だけといわれています。

二〇〇五年には、創立九十周年を迎えられており、これまでに奨学金を受けた学生は八百人を越えているそうです。各務理事長は「奨学会の使命は『人づくり』古里を愛する若者の志ほど心強いものはない。黒田奨学会から日本や郷土の将来を担う若者を送り出したい。」と話をされていらっしゃいました。

▼黒田家濵町別邸跡記念碑

御影石（みかげいし）

お墓のチラシ等で、高級御影石使用という言葉を見かけます。

また、ホテルのロビーやデパートの店舗で、色とりどりの硬い石を目にされたことはありませんか。

これらの多くは通称「御影石」と呼ばれています。

では、御影石とは、どのような石を指すのでしょうか。

御影石とは、本来、花崗岩で石材として使用する場合に呼ばれる名称でした。花崗岩は、火山の噴火によってできた火成岩の一種です。

火成岩は、つくりによって、火山岩と深成岩の2種類に分類されます。（表参照）

火山岩は、含まれる鉱物の割合によって、さらに流紋岩、安山岩、玄武岩に分類され、深成岩は、花崗岩、閃緑（せんりょく）岩、斑れい岩に分類されます。

深成岩は、表でも分かるように、鉱物間の結びつきが強く硬い石です。その高い強度が理由で、長い年月が経っても変らない性質から、石橋やお墓などに使用されてきました。

花崗岩は、深成岩の中でも白い石を多く含むため、通称白御影石と呼ばれ、神社の鳥居、お城の石垣や石橋で見ることができます。

御影石の「御影」の由来は、兵庫県神戸市の地名（旧武庫郡御影町、現在の東灘区御影町など）で、御影町の北端に位置する六甲山地に花崗岩が産出されたことによります。

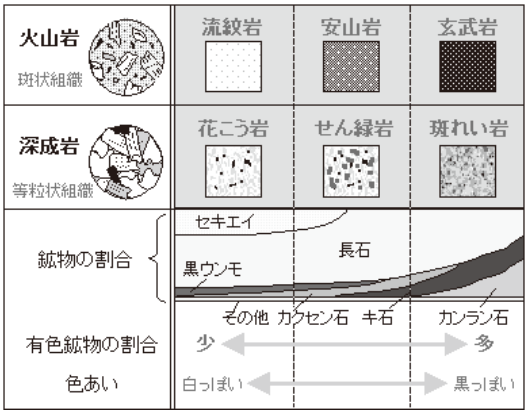
この御影の名称は、その後、日本の石材産地にも転用され、茨城県桜川市（旧真壁町）を中心とした「真壁御影」等様々な産地の石の名前に使用されてきました。

また、花崗岩と同様の成分で有色鉱物の多い閃緑岩や斑れい岩にも転用され、「黒御影石」として呼ばれます。

そして、中国産やインドの花崗岩等にも中国産御影石、インド産御影石として転用されています。

現在の御影石という名称は、本来の御影石の名前から飛躍して、深成岩全般を指すようになっているようです。

街を歩く際に、元祖御影石を探すのも楽しいかもしれませんね。



『お墓講座＆相談会』のご報告

二〇〇七年十月二十八日（日）十三時より、電気ビルに於いて『お墓講座＆相談会』を開催致しました。

お墓講座には四十名の方にご参加頂き、全優石（全国優良石材店の会）会長の吉田剛氏より「最新のお墓事情・現場から・」と題してご講演を頂きました。ご参加頂いた皆様からは、大変参考になる講演会だったとご好評頂きました。

第二部の個別相談会には十二件のご相談があり、全優石お墓相談員が受け賜りました。お墓に対する悩みを解決して帰られたご様子で、私共も嬉しく思いました。

次回の開催も振るってのご参加、お待ちしております。

▲『お墓講座＆相談会』会場の様子

なんでも質問コーナー

前回のアンケートハガキに寄せられた質問にお答えします。

Q 墓石の黒ずんだ部分を取るにはどうしたら良いでしょうか？

A 黒ずみの原因は、外部からの汚れや水垢と考えられます。比較的新しい汚れは、磨き面であればカッターナイフで削って落とすことができます。カッターナイフの刃を長めに出して寝かせ、指の腹で押さえて汚れにすりあわして取ると徐々に取れます。「たわし」は墓石を傷つけやすく、「洗剤」は拭き残しの痕が残ってしまうので、一般の方にはお勧めしません。汚れが酷い場合は、クリーニング作業をお勧めしております。

Q お墓を建立する時に名前を朱で塗っているのは何故ですか？黒でもいいのでしょうか？

A どちらでもかまいません。これは中国に始まった習慣で、生きている人がお墓を建てることを寿陵（じゅりょう）とし、「不老長寿の願い」で朱文字にすると言われています。他にもいくつかの説があり、生きている人と亡くなった人を区別する為ともされています。朱文字でなければいけないということはありません。

町名散歩

第十四回 友泉亭（ゆうせんてい）

世に堪えぬ
暑さも知らず湧き出づる
泉を友とむすぶ庵（いおり）は
―　久世三位源通夏卿（くぜさんみみちなつ）

福岡市城南区友泉亭。この地名は旧黒田藩主別邸『友泉亭』の在によるもので、その名称は、藩主に仕えた儒学者竹田定直（さだなお）が撰んだ歌にちなんで名付けられました。

詠み人の久世三位源通夏卿は、村上源氏久我（こが）流の公家貴族で、久世家の家業は和歌とされます。三位は官位で、大納言であることを示しています。

泉を友とむすぶ庵。風雅な聞こえです。また、詠み人も大変高貴な方のようです。一体、友泉亭とはどのような所でしょうか。

宝暦（ほうれき）四年（一七五四年）六代藩主継（つぐ）高（たか）公は、旧早良郡田島村に別邸を設けました。北の方角に福岡城を遠望するその施設用途は、狩りの際の休息・保養の場、緊急時の避難場所、政治軍事上の機密会議の場でした。他藩庭園にみられるような華美や広大さはありません。質素質実なる池泉廻遊式（ちせんかいゆうしき）純日本庭園なのです。

明治維新後、小学校や役場、個人宅、社宅と所有者の変転により一時荒廃したものの、昭和五十六年春に福岡市が復元・整備を行い、歴史公園として一般公開されるようになりました（大人二百円・小人百円）。

その主な構成要素は、昭和初期に建てられた本館大広間、六畳の和室、如水庵（じょすいあん）と章山庵（しょうざんあん）の二つの茶室、そして石積みの瀧に池泉、美しい樹木達です。

かつて傍らの樋井川を源としたという敷地中央の池泉を、ぐるりと回遊してみました。早春はツバキ、秋ならばモミジと四季折々の植栽を鑑賞できます。シイやカシの古木、推定樹齢三百年とされるキンモクセイの大木が、往時の風情を伝えてくれます。

本館大広間にて、鯉のエサ（五十円）なるものを発見しました。池で戯れる鯉に与えてみましょう。アヒルかカモ（？）に素早く横取りされてしまいます。鯉に同情すること暫し。半ば意地での餌付けを楽しむことができました。

ちょっと疲れたら、抹茶セット三百円（お抹茶と季節の干菓子）がお勧めです。ふっと遠景に目を向けると、思えばここは街の中。「都会のオアシス…」そんな言葉が湧いてきます。

友泉亭公園へのアクセスです。

【西鉄バス】①十二番系統「友泉亭」下車徒歩五分。②十三・十六・五四・九六・一一三系統「友泉中学校」下車徒歩十分。

【自家用車】天神から、けやき通り・六本松経由、「別府橋」交差点で左折、樋井川沿いに約一km。ダイエー笹丘店から百m先の左側です。

第3回　初夏のハイキングのお誘い

目 的 地：大分県万年山（はねやま）(1,140m)
　　ミヤマキリシマが咲く道をゆっくりと登っていく初心者コースです。
開催日時：平成20年5月17日(土)
コ ー ス：博多駅～福岡空港～玖珠インター～万年山～宝泉寺温泉～九重ふるさと館見晴らしの湯～
　　午前8:00　午前8:15
　　夢の大吊り橋～九重インター～博多駅～福岡空港（◎マイクロバスにて移動）
　　（希望者のみ）　午後7:00　午後7:30
歩行時間：往復3時間(途中昼食が入ります)
参 加 費：3,000円(税込)　※昼食弁当代、温泉入浴料、バス代、ガイド代を含みます。
　　夢の大吊橋は、別途料金（500円）が必要となります。
募集人数：18名
お申し込み：同封のハガキにてお申し込み下さい。
締め切り：平成20年4月10日(木)必着　※定員に達し次第締め切らせていただきます。
◎詳細は後日、参加者の方にお知らせいたします。お友達、ご夫婦お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。
お問合せ：0120-245400　担当：髙田/中西
（092-957-3500）

プレゼント当選者発表

厳正なる抽選の結果、次の方々が当選されました。
たくさんのご応募ありがとうございました。

①商品券5,000円分
　岩井須磨子様、他3名様
②万歩計
　大川展正様、他4名様
③平尾のお土産
　小山田千秋様、他14名様

第6回「松ぼっくり杯」ゴルフコンペ結果報告

今回で第6回目を迎える「国松石材（株）松ぼっくり杯ゴルフコンペ」が、11月24日(土)、みやま市の福岡サンレイクゴルフ倶楽部で開催されました。絶好のゴルフ日和で、24名にご参加いただきました。結果は以下の通りとなっています。

優　勝	藤野　晃弘様	（ネット73.4　グロス89）
準優勝	神野　幸樹様	（ネット73.4　グロス83）

次回もたくさんのご参加お待ちいたしております。